

学内向け試験費用

試験名称	試験概要	装置スペック	機器使用料	備 考
振動試験	ロケット打ち上げの際の振動に耐えられることを検証する	センサーは24chまで 25ch以上は要相談	15,000円/日	消耗品費用(実費)を別途徴収※1
衝撃試験	ロケットから切り離す際の際の分離衝撃に耐えられることを検証する	10cm級、50cm級の衝撃試験	20,000円/日	消耗品費用(実費)を別途徴収※1
熱真空試験(大)	軌道上で予測される条件より厳しい温度環境条件下で、衛星が性能を発揮できることを検証する	シュラウド内径1.5m、到達圧力1.0x10-5Pa,液体窒素シュラウド付き	12,000円/日	消耗品費用(実費)を別途徴収※1
熱真空試験(小)	軌道上で予測される条件より厳しい温度環境条件下で、衛星が性能を発揮できることを検証する	試験可能サイズ15cm x 15cm x 30 cm, 到達圧力1.0x10-5Pa, 液体窒素シュラウド付き	12,000円/日	消耗品費用(実費)を別途徴収※1
熱平衡試験(大)	衛星の熱設計の妥当性の確認及び熱数学モデルの検証を行なう	シュラウド内径1.5m、到達圧力1.0x10-5Pa,液体窒素シュラウド付き	12,000円/日	消耗品費用(実費)を別途徴収※1
熱平衡試験(小)	衛星の熱設計の妥当性の確認及び熱数学モデルの検証を行なう	試験可能サイズ15cm x 15cm x 30 cm, 圧力1.0x10-5Pa, 液体窒素シュラウド付き	12,000円/日	消耗品費用(実費)を別途徴収※1
熱サイクル試験(大)	衛星および衛星部品に対して高温と低温に繰り返し曝す事で、供試体の耐久性を検証する試験	-190℃から200℃まで試験可能。温度プロファイルについては任意のプロファイルが設定可能	12,000円/日	消耗品費用(実費)を別途徴収※1
熱サイクル試験(小)	衛星および衛星部品に対して高温と低温に繰り返し曝す事で、供試体の耐久性を検証する試験	-190℃から200℃まで試験可能。温度プロファイルについては任意のプロファイルが設定可能	12,000円/日	消耗品費用(実費)を別途徴収※1
真空中機能試験	衛星に使用する部品、素子等の真空環境下で動作することを検証する	到達圧力5.0x10-5Pa	5,000円/日	消耗品費用(実費)を別途徴収※1
加圧コンポーネント 圧力試験・リーク試験	圧力容器等が要求通りの耐圧とリークレートをもつことを検証する	試験可能サイズ:15cmx15cmx15cm 真空容器背圧:1Pa	10,000円/日	消耗品費用(実費)を別途徴収※1
衛星姿勢制御測定 (ADCS)	人工衛星の姿勢制御に関する各項目の測定	・地磁気センサーの校正 ・ジャイロセンサーの校正 ・太陽センサーの校正	25,000円/日	消耗品費用(実費)を別途徴収※1
ソーラーシミュレーター	ソーラーシミュレーターを使用したソーラーパネルの特性計測試験		15,000円/日	消耗品費用(実費)を別途徴収※1
アウトガス試験	ASTM E-595に準拠したアウトガス測定を実施する	ASTM E-595に準拠	100,000円/回	消耗品費用は機器使用料に含む 機器使用料に加え50,000円/種を加算。 1回につき4種まで測定可能。イレギュラーなサンプルの依頼・サンプルの情報開示が不可などその他の場合、単価は割り増し料金(×2)とする。 1種はN=3とし、異なるN数を希望する場合はサンプル種類数をM、1種類当たりの検体数をNとすると ・M×Nの値が12を超えると、12毎に再度、機器使用料が必要 ・N=3以外の場合、M×N÷3の数値の小数点以下を切り上げた整数値を単価に掛ける。 オペレータは九工大のみ 納期:測定1回につき1か月以上
熱光学特性試験	太陽光吸収率および垂直放射率の測定	測定波長範囲 太陽光吸収率:0.25～2.5 μm 垂直放射率:2.5～100 μm	α 装置、20,000円/回 ε 装置、20,000円/回	消耗品費用は機器使用料に含む 機器使用料に加え15,000円/データを加算。1検体につきαを2回、εを2回測定の場合、15,000×4+20,000×2=100,000円 1回につき6データまで測定可能。イレギュラーなサンプルの依頼・サンプルの情報開示が不可などその他の場合、単価は割り増し料金(×2)とする。 オペレータは九工大のみ 納期:測定1回につき1か月以上
共同利用研究 ※6	各衛星試験設備の共同利用	超小型衛星試験センターの共同利用申請を行い、採択を得た研究に限り、センター保有試験装置を無料で使用出来ることとする。	基本的に無料※2	特殊な機材、消耗品等を使用する場合、相談の上、実費請求あり

利用料金は予告なく改訂することがあります。
熱光学特性試験を除き、機器の操作を利用者が行なうことを前提とします。
※1: 消耗品費用とは液体窒素、専用治具の作成、センサー類の追加分等を指します。
※2: 特殊な機材、消耗品等を使用する場合は、予め共同利用申請を行う際に相談を行う事。
※6: 現在は募集を停止しています。